

## 平安までの支配者たち

古代から平安時代までのこの辺りの支配者やその領地について明確な資料がなく伝承的な話となりますが、古い順から列記してみます。

まず古墳時代後半、古事記によると倭建命（日本書紀では日本武尊）の四男、足鏡別王を祖とする鎌倉別という豪族が鎌倉郡・三浦郡の地域を支配していたそうです。

次にいくつかの書物や伝承によると、藤原鎌足の玄孫で、相模の国造の漆部氏出身とも言われ、また東大寺開山の良弁の父である染屋太郎太夫時忠は、長谷に館を構え由井長者とも称され、七〇〇年頃から七二五年頃まで東八カ国総追捕使として治安維持に努めて東国を支配したそうです。六国見山の稚児塚は時忠の娘の墓といわれています。

次は九四〇年頃、平将門の叔父の平良文は藤沢の村岡に館を建てこの辺一帯を支配したそうです。良文の墓と言われるものが植木の隣の渡内にある二伝寺の裏山に二人の子の墓と一緒にあります。その子孫達は平安時代末に鎌倉党や三浦党と言われる武士団を形成しました。

平良文の孫の忠常が一〇二八年におこした反乱に追討使として派遣された平直方は鎌倉を本陣にして戦いをした後、源頼義の秀でた武勇を気に入り娘と夫婦にして鎌倉の館と領地を譲りました。源氏は、頼義から義朝まで代々この館を拠点に、東国の支配を強固なものにしていきましました。